

# かつの微生物農法研究会便り

H24.2.1 No.111 (通算)



零下10℃の白の世界。

## 厳しく寒い冬は春の序章です。

零下10℃とか18℃とか、北東北の真ん中の盆地にあって冬はとても気温が下がる当地鹿角。今季は冬らしい冬になっていると言えそうです。暖冬のうわさはどこへやら…。雪は過疎化・高齢化がすすむ里では生活上とても難儀なものではありますが、ある程度の雪と寒さがなければ、当地の自然も農業も成り立ちません。山の木々や動物の生活サイクル維持にも大切です、鹿角ならではの山菜類もこの厳しい冬あっての芽吹きとなります。果樹の花芽形成にも、春先の田植えに必要な大量の水の確保のためにも、冬の寒さと雪は必要です。鹿角の地酒なども、豊富で良質な地下水に恵まれているからこそそのものだそうです。季節を超えていつまでも寒くて雪が降るとするのは困りますが、春は春らしく夏は夏らしく…といったように、四季の移り変わりがはっきりしているのが一番、自然も美しく見え農産物も美味しく育てることが出来ます。またその四季がはっきりしているのと関係があるのかどうか分かりませんが、秋田と言えば色白で線の細い秋田美人が褒め言葉としてありますが、これから2月～3月に入ると真っ黒に日焼け(雪焼け)した男たちが鹿角では見られます。降雪が少なくなると、果樹生産者は一斉にりんごや桃の剪定作業に入りますが、雪の上での長時間の過酷な剪定は、雪の照り返しで南国のサーファー並みに日焼けしてしまうのです。

## 「微生物農法」って何のこと?

水田の土の中には沢山の種類、膨大な数の微生物が活動しています。私たち人間のお腹では善玉菌と悪玉菌のバランスが崩れると体調が悪くなりますが、イネにとってのお腹を水田土壌、とらえたのが微生物農法です。水田の土も微生物のバランスを整えてやるのがとても重要で、そのバランスが崩れるとイネが病気にかかりやすくなったり、生長が上手くいかなくなったりします。有機肥料や堆肥で微生物バランスを良好に保つことで、健康で自ら美味しくなる作物作りをするというのが微生物農法です。

## 食べてお得なサービス実施中。

### ポイントシールをためて送ると必ずもらえるプレゼント!



お買い上げいただいたお米、2800円毎に一枚ついてくるシールを集めて専用台紙に貼って送ると、お米などをもらえなくプレゼント!



# 生産地から

当地鹿角は農業の盛んな土地ですが、その起爆剤となったのは無数の鉱山でした。最も歴史が古い鉱山は、今から1300年ほど前、西暦708年(和銅元年)に発見されたという伝説があります。往古、奈良の大仏造営や平泉の黄金文化に使われ、明治の産業革命と戦争をも支えた当地最大の鉱山、尾去沢鉱山は、近代産業遺産にも指定されました。今は巨大廃墟と総延長800kmにおよぶ坑道が残る史跡尾去沢鉱山、一度是非訪れてみて下さい。



かつて黄金の国ジパングと言われた日本、その呼称の種といわれる平泉の黄金文化を実現させる原動力となった鹿角の金山。江戸時代中期のゴールドラッシュは70年間も続き、小豆大の純金がごろごろと産出されたという。今も、地名で大物(大きな金の塊が取れた沢)、五十枚山(月産黄金五十枚の山)などとして残っている。



今では秋田名物として世に知られるようになった「きりたんぼ」は鹿角発祥と言われ、鹿角の鉱山発展に起因している。鉱山の坑道の落盤を防ぐためには多くの木材が資材として必要で、鉱山の隆盛とともに木材を山から切り出す山子(やまこ)という職人も増えた。山子は山に長期間滞在するが、彼らが携帯食として作ったものがきりたんぼの原型となった、と伝えられている。



こちらのホームページで鹿角地域の様々な観光案内がご覧いただけます。

(社)十和田八幡平観光物産協会  
<http://www.ink.or.jp/kankou18/>  
**かつのファンクラブ**  
<http://www2.city.kazuno.akita.jp/fanclub/index.html>

美味しいお米とりんごのご注文/お問合せ先は・・・

〒018-5201 秋田県鹿角市花輪字赤川端7-3

**有限会社 安保金太郎商店**

フリーダイヤル：0120-08-2028

e-mail [kintaro@umaikome.jp](mailto:kintaro@umaikome.jp)



農業が盛んな鹿角地域は、太古の昔から、金・銀・銅などの鉱山で栄えた。鉱山に集まった人々のために農業が盛んになり、街が発展した。鉱山の数、100以上。世界的に例を見ない大鉱脈密集地域だった。しかし今は稼動鉱山ゼロ、高い技術レベルの農業だけが残されている。

**ぜひ一度 かつの 鹿角へ遊びに 来てみて下さい!**

有限会社 安保金太郎商店  
 かつの微生物農法研究会  
 事務局  
 文・写真：安保 大輔